

第60回サロシシリーズ 藤間章吾氏迎える



息の合った舞台を披露する伊藤(左)と藤間

ニューヨークで45年にわたり日本舞踊の普及や指導をする舞踊家の伊藤さちよ(藤間さちよ)が18日、マンハッタンのバルーク・パ

フォーミング・アーツ・センターで「さろんシリーズ」第60回記念公演を開催した。伊藤が19年前に始めた同シリーズ、今回は藤間流師範の藤間章吾氏を迎えて「歌舞伎から現代へ」との副題で、伊藤の生徒や各国の舞踊家たちと共に7作を披露した。

第1部は「禊(みそぎ)」で始まり、天理雅楽の演奏で巫女たちが舞台を浄める舞踊が演じられた。続いて藤間氏が登場、羽衣伝説「松廼羽衣」を伊藤とともに演じ、3人の女性が「晴天の鶴」を踊った後に再び藤間氏が登場して独演「将門」抜粋(戦物語)を披露した。続いて、勇壮な動きで緊張した会場を和ませるように、着物姿の少女らが会場や舞台上で花びらを撒いて、伊藤の創作作品「早春」が上演された。

休憩時間も、舞台上ではフワワーアーティストの西森克也が黒子に徹しながらも大瓶に花を生けるという趣向を凝らしたプログラムで観客を楽しませ、第2部の伊藤が創作した現代作品の舞台では、独演「花びらは散るが花は散らない」と、インドや欧州の舞踊家と共演する「呼吸のみ」を伊藤が演じて、華やかな雰囲気の中で幕を閉じた。

公演後、藤間氏は「馴染みのない舞踊だったと思うが、真剣に見てくださったという気持ちがか伝わってきた」と話し、伊藤は「これからも各国の舞踊文化との比較交流を通じて日本舞踊を追求していきたい」と話した。(小味かおる、写真も)